（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	クォーレ 千田教室			
○保護者評価実施期間	令和7年1月7日		～	令和7年1月21日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	62名	（回答者数）	42名
○従業者評価実施期間	令和7年1月7日		～	令和7年1月21日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4名	（回答者数）	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	科学的根拠に基づいたプログラムを行っている。	プログラム作成の部署があり研修などで情報共有を行っている。 プログラムを立案、指導案の作成を行う部署があり、日々ブラッシュアップされている。	こどもたちの将来につながるようブラッシュアップし続ける。
2	こども一人一人に寄り添い、細かい対応ができる。	来所前にスタッフでミーティングを行い、1日の流れや来所するこどもの課題や対応方法などを話し合っている。	療育後のフィードバックがスタッフ全員で行えないことがある為、難しい時はスタッフ間のLINEなどを活用しスタッフ全員が共通認識できるようにしていく。
3	安全管理の徹底	社内研修を行い、療育中、休憩中、送迎時の危険箇所の把握をおこなっています。 来所前のミーティング時にスタッフの配置などを確認し、安全を確保しています。	スタッフそれぞれ危険性の感じ方が違う為、理解しているだろうではなく常にミーティングで危険箇所の確認を行う必要がある。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	協議会等への参加が少ない	出来る限り参加、課題の共有が出来たらいいと思います。	時間の確保が必要。
2	学校との連携	学校と連携をとり、こども達の課題を共有し対応する事でこども達にとってより効果の高い療育が行えると思います。	個人情報や防犯対策の為、連携が取りづらい状況があります。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	クォーレ広島千田教室

公表日　令和7年　2月　10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		運動療育プログラムは十分行えるスペースを確保しています。	室内に不必要な物を置かず十分な療育スペースを確保する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		人員を増やすことにより子供が誰の指示を聞いてよいのかわからなくなるデメリットがあります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		2階に教室があるため階段があるということでバリアフリーとは言えないが、教室内は全面フラットになっています。	階段の昇降時は必ず職員が対応することを続ける。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内の消毒、掃除、換気は常に行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーテーションを活用し必要に応じて個別スペースで対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		子供の療育目標はもちろんのことだが、教室の年間療育目標も定めており、PDCAサイクルを常に行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様からのご意見を頂ける媒体として有意義に活用させていただいている。 ご意見をもとに改善できる点は随時改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員から出た意見をもとに改善できる点は随時改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		時折、外部から小学校の先生、幼稚園の先生、大学で発達障害について研究されている客員教授の先生などが視察に来られ、ご感想等を改善につなげている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		導入時研修、週3回の模擬授業、1カ月に一回の定期研修を行い職員の質の向上を図っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公開している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		当教室では客観的視点を持ち課題を見つけ、 科学的根拠に基づきどう改善するのかをサービス計画に反映することが本当の意味での計画と思って行っています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管と職員で日ごろの様子や障害特性を話し合い課題を分析し個別支援計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		個別支援計画、専門支援計画をもとに支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		障害特性の知識をもって行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		年に2回保護者さんと面談を行い課題や目標を共有している。 専門支援実施計画書を作成し、より専門的な計画を立て目標を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		教材課、運動課をつくりプログラムの構成、進め方について研究し各教室へ提案、改善を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育とは子供の困り感を改善するものです。 常にブラッシュアップが必要であると考え行っています。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動ができ、初めてそこから本当の療育が始まると思っている。 個別も集団に入るための過程として行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		療育内容を統一し、また、事故のなきよう支援するためには必ずミーティングは必要。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援後のフィードバックは子供の療育にとってはもちろんのことだが、職員のスキルを向上させるためにも欠かせないものである。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		その日の支援の様子を客観的に記録に残すことで初めて支援目標が作れると思っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		見直しは方向修正が入れば常に行うものとしている。基本は半年に一度立てた目標がどうだったかを検証し、次の目標を立てる。 半年に一度保護者との個別面談も行う。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、余暇の提供を組み合わせて行っているが地域交流の機会の提供は行えていない	地域交流の機会の提供も検討していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		コミュニケーション活動、係活動、休憩時間を用いて自己決定する場面を意図的につくっている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管もしくは管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	学校を含めた担当者会議に参加し、情報を共有し支援を行っている。	個人情報や防犯対策のため学校側との連携が取れない状況があります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。		○	保護者さんに協力してもらい情報を頂いています。	個人情報や防犯対策のため学校側との連携が取れない状況があります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	個人情報に関わることなのでこちらから積極的には聞き取ることはしていない	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	現在、そのようなケースがないため行っていない。	今後必要があれば行っていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○		大学の研究機関及び小児科のドクターと連携をとることを計画している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	当教室では確立したプログラム提供を行っているため、このような機会は検討しておりません。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		時間の都合が合わず参加できていないので、時間の折り合いがつけば積極的に参加していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳、ラインを活用し保護者様とは連携をとらせていただいています。 詳しくは年二回の個別面談時にさせていただいています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		外部講師として言語聴覚士さんをお招きし保護者様むけの「言語発達に関する講演会」を開催しました。	
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時や質問があった際には、必ず管理者から丁寧にご説明をする体制を作っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		送迎時や連絡帳、ラインを活用し保護者様とは連携をとらせていただいています。 詳しくは年二回の個別面談時にさせていただいています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		個別支援計画の原案を作成し同意を頂き配布を行っています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や連絡帳、ラインを活用し保護者様とは連携をとらせていただいています。 詳しくは年二回の個別面談時にさせていただいています。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	現在その予定はありません。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しています。	気になる事がある場合はいつでも連絡をください。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に一度会報誌をHPに掲載し、プログラムの意味や効果、その月の予定など周知している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は特に留意しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			配慮しきれていない箇所を見つけ改善を行っていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在そのような機会はない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		保護者評価より周知が不十分と判断しました。 今後は契約時はもちろんのこと、会報誌やHPを活用し周知に力を入れてまいります。 職員は全員周知している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		策定、訓練は行いました。	改善箇所を見つけ改善を行っていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者さんへのモニタリングとアセスメントシートで確認をしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーに関しては保護者に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全研修を行い、ヒヤリハット記入や危険だと想像される場面を書き出し、安全を確保しながら支援が行えるようにしています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。		○	社内では行っているが周知は徹底できていな。	安心して利用していただくために周知できるようにしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		安全研修を行い、ヒヤリハット記入や危険だと想像される場面を書き出し、安全を確保しながら支援が行えるようにしています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に1回研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	年に1回研修を行っている。 事例なし。	